

## 3 . 平成 1 9 年度事業計画書

- 1 . 概況：重点活動
- 2 . 会員の異動予想
- 3 . 会議等に関する事項
- 4 . 事業：研究・調査、研究発表・学術講習会などの開催（定款 5 条 1 号）
- 5 . 事業：会誌および学術図書の刊行（定款 5 条 2 号）
- 6 . 事業：標準化の推進、普及啓蒙（定款 5 条 3 号）
- 7 . 事業：情報技術関連の国際学協会への加盟、連絡・協力（定款 5 条 4 号）
- 8 . 事業：関連学協会との連絡、協力（定款 5 条 5 号）
- 9 . 事業：その他，目的を達成するために必要な事業（定款 5 条 6 号）

# 3 . 平成 1 9 年度事業計画書

## 1 . 概況：重点活動

正会員数が 2 万人を割った。減少の中心は企業の会員であり、アカデミアの会員の微増傾向は変わらない。一方、IEEE や ACM を含めて、欧米の学会は実務家中心のプロフェッショナルソサエティであることが報告されている。特に、英国最大の IT ソサエティである British Computer Society (BCS) は会員、事業ともに大幅に拡大している。日本では、このプロフェッショナルソサエティは情報サービス産業協会 (JISA) や日本情報システム・ユーザー協会 (JUAS) に該当するのかもしれない。

本会は、現代と未来の情報社会をリードする分野に進出し、最先端の ICT 技術を世の中に提供することが使命であるが、それは「学術の焦点」と「実務の焦点」の 2 つの焦点を持つ学会運営によって成り立つと考えている。

この 3 年間、技術応用委員会を中心に活動してきた実務家向けのコミュニティ (IT フォーラム) 作り等の施策を、JISA や JUAS 等と協調しながらさらに加速する必要がある。一方で、論文誌および研究会活動を全面的にオンライン化することにより会員のメリットを最大限追及することを目指す。また同時に、学生の情報離れの原因は初等・中等教育にもその一端があることを認識し、本年度の重点活動を以下とする。

(1) 技術応用活動の活性化、(2) 創立 50 周年に向けた論文誌および研究会刊行物のオンライン出版推進、(3) 教育活動の推進。

### 1.1 技術応用活動の活性化 (詳細は 9.3 項を参照)

実務家向けのコミュニティ「IT フォーラム」と「ソフトウェアジャパン」の運営をベースに、引き続き、これまで学会とは接点の少なかった分野や新たな分野の会員の参画を目指すとともに、Web の浸透に対応した新たな学会活動の在り方も探っていく。

#### (1) 「IT フォーラム」の本格的な活動の活性化

会誌に「IT フォーラム」欄を設け、ソフトウェアジャパン招待講演者の講演録や著名人の記事の紹介、オピニオンリーダーの寄稿などを企画する。

ワークショップやチュートリアルなどのリアルなイベントの開催をフォーラム毎に推進する。

JISA や JUAS など関連団体との連携を推進する。

企業のシニアマネージャによるアドバイザリボード (IAB: Industry Advisory Board) を設置する。

#### (2) 学会ソーシャルネットワークサービス (SNS) の試行

#### (3) IT フォーラムとの一層のシナジー強化による「ソフトウェアジャパン 2008」の開催

### 1.2 論文誌および研究会刊行物のオンライン出版推進 (詳細は 5.5 項を参照)

情報処理技術の社会応用に先駆的に挑むべく、平成 22 年の本会創立 50 周年に向けて、論文誌および研究会の活動を段階的に全面オンライン化・ペーパーレス化し、低価格で購読可能な「総合デジタルライブラリ (仮称)」の実現を含め、会員のメリットを最大限追及することを目指す。

オンライン化のスケジュール

ジャーナル、トランザクション：平成 20 年度実施

研究報告、シンポジウム：平成 20～21 年度実施

「総合デジタルライブラリ」の実現：平成 22 年度

### 1.3 教育活動の推進 (詳細は4.2項を参照)

#### (1) 大学・大学院での専門教育向けの活動

「情報系専門教育カリキュラム標準 J07」について、昨年度策定した大学での情報分野専門教育に対する知識体系(知識項目とその達成度)表を基に、産学協同で具体的なカリキュラム例を策定する。

日本技術者教育認定機構(JABEE)の諸活動を通して、大学での専門教育の質的向上を推進するとともに、審査員の養成、受審コンサルテーションを担当する組織づくりを進める。大学院教育の質的向上に向けて、認定の実施も含めた方策の検討を進める。

#### (2) 初等・中等教育, 大学一般向けの活動

高等学校の教科「情報」に関して、内容の検討, 教科書試作を継続して行うとともに、現場の先生との連携の場を広げる。

大学での新しい姿の一般情報教育を推進すべく、教材の整備・提供に努める。

## 2. 会員の異動予想

会員種別	会員数		増減数	備考 :19年度の異動				
	19年度末	18年度末		入会		退会		除名
名誉会員	41	39	2	2	正会員から異動			
正会員	18,574	19,324	-750	500 650	学生会員から異動	1,300 2	名誉会員に異動	598
学生会員	2,697	2,517	180	1,300		450 650	正会員に異動	20
準会員	52	49	3	10		4		3
個人会員 計	21,364	21,929	-565	2,462		2,406		621
賛助会員 (口数)	285 (567)	295 (577)	-10 (-10)	10 (147)		20 (20)		

\* 正会員には終身会員200名を含む。

## 3. 会議等に関する事項

### 3.1 第50回通常総会

平成19年5月30日(水)に、学士会館(東京都千代田区)で開催する。

### 3.2 理事会

年度内に6回以上開催し、学会活動に関する諸事項を審議する。

### 3.3 各種委員会

必要に応じて開催し、所轄活動に関する諸事項を審議する。

---

---

## 4．事業：研究・調査ならびに研究発表・学術講習会などの開催（定款5条1号）

---

---

### 4．1 調査研究活動 [所掌委員会：調査研究運営委員会]

#### (1) 領域委員会，研究会，研究グループ

3領域，36研究会，3研究グループにより活動を推進し，次の7点を重点事項として取り組む。

新規分野の開拓

学生会員の取り込み

領域制，研究活動（研究グループ制度の弾力化など）の見直し

論文誌・トランザクション等編集・出版方針の包括的再構築

トランザクション（研究会論文誌）・研究報告，シンポジウム論文集等のWeb化推進（電子化委員会との連携による）

調査研究活動積立金の有効活用

関連諸活動との連携と協調（FIT，全国大会，国際等）の強化

[調査研究運営委員会：研究グループ(1)（括弧内は英略称）]

教育学習支援情報システム（CMS）研究グループ

[コンピュータサイエンス領域：研究会(10)（括弧内は英略称）]

データベースシステム（DBS），ソフトウェア工学（SE），計算機アーキテクチャ（ARC），システムソフトウェアとオペレーティング・システム（OS），システムLSI設計技術（SLDM），ハイパフォーマンスコンピューティング（HPC），プログラミング（PRO），アルゴリズム（AL），数理モデル化と問題解決（MPS），組込みシステム（EMB） 各研究会

[情報環境領域：研究会(15)，研究グループ(1)（括弧内は英略称）]

マルチメディア通信と分散処理（DPS），\*名称変更：ヒューマンコンピュータインタラクション（HCI），グラフィクスとCAD（CG），情報システムと社会環境（IS），情報学基礎（FI），オーディオビジュアル複合情報処理（AVM），グループウェアとネットワークサービス（GN），分散システム/インターネット運用技術（DSM），デジタルドキュメント（DD），モバイルコンピューティングとユビキタス通信（MBL），コンピュータセキュリティ（CSEC），高度交通システム（ITS），高品質インターネット（QAI），システム評価（EVA），ユビキタスコンピューティング（UBI） 各研究会  
放送コンピューティング（BCC）研究グループ

[フロンティア領域：研究会(11)，研究グループ(1)（括弧内は英略称）]

自然言語処理（NL），知能と複雑系（ICS），コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM），コンピュータと教育（CE），人文科学とコンピュータ（CH），音楽情報科学（MUS），音声言語情報処理（SLP），電子化知的財産・社会基盤（EIP），ゲーム情報学（GI），エンタテインメントコンピューティング（EC），バイオ情報学（BIO） 各研究会  
ネットワーク生態学（NE）研究グループ

#### (2) トランザクション（研究会論文誌）の発行と計画

次5.3項に掲載する。

## (3) シンポジウム・講習会等 (27 件)

シンポジウム・講習会等名	主催研究会 略称	期 間	場 所
ITS 産業フォーラム	ITS	H19. 5.18 (金)	化学会館
先進的計算基盤システムシンポジウム SACSIS 2007	ARC, OS, HPC, PRO	H19. 5.23 (水) ~ 25 (金)	学術総合センター
Visual Computing / グラフィクスと CAD 合同シンポジウム	CG	H19. 6.23 (土) ~ 24 (日)	大阪工業大学
第10 回画像の認識・理解シンポジウム (MIRU2007)	CVIM	H19. 7.30 (月) ~ 8.1 (水)	広島市立大学
マルチメディア, 分散, 協調とモバイル シンポジウム (DICOMO 2007)	DPS, GN, DSM, MBL CSEC, ITS, QAI, UBI	H19. 7 月 4 (水) ~ 6 (金)	三重県鳥羽 戸田屋
情報教育シンポジウム (SSS2007)	CE	H19. 8.26 (日) ~ 28 (火)	鈴鹿国定公園 希望荘
ソフトウェアエンジニアリング シンポジウム 2007 (SES2007)	SE	H19. 8.27 (月) ~ 29 (水)	日本科学未来館
DA シンポジウム 2007	SLDM	H19. 8.29 (水) ~ 30 (木)	遠鉄ホテルエンパイア
MPS シンポジウム	MPS	H19. 8 月	(未定)
組込みシステムシンポジウム 2007 (ESS2007)	EMB	H19.10.18 (木) ~ 20 (土)	日本科学未来館
コンピュータセキュリティ シンポジウム 2007	CSEC	H19.10.31 (水) ~ 11.2 (金)	奈良県新公会堂
マルチメディア通信と分散処理 ワークショップ	DPS	H19.10 月下旬	(未定)
第 12 回ゲームプログラミング ワークショップ	GI	H19.11. 9 (金) ~ 11 (日)	箱根セミナーハウス
第 19 回コンピュータシステム・ シンポジウム (ComSys2007)	OS	H19.11.20 (火) ~ 21 (水)	つくば国際会議場
分散システム / インターネット 運用技術シンポジウム 2007	DSM	H19.11.22 (木) ~ 23 (金)	山梨大学
デジタルドキュメントシンポジウム	DD	H19.11.29 (木) ~ 30 (金)	(未定)
画像符号化シンポジウム・映像メディア 処理シンポジウム	AVM	H19.11 月上旬	ラフォーレ修善寺
データベースと Web 情報システムに 関するシンポジウム (DBWeb2007)	DBS	H19.11 月	(未定)
第 12 回ヒューマンインタフェースプロ フェッショナルワークショップ (HIP12)	HCI	H19.11 月	(未定)
グループウェアとネットワーク サービスワークショップ 2007	GN	H19.11 月	(未定)
人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん 2007)	CH	H19.12.13 (木) ~ 14 (金)	京大会館
IS チュートリアル	IS	H20. 1.11 (金)	日本 IBM
高度交通システム 2008 シンポジウム	ITS	H20. 1.18 (金)	日本科学未来館
ウィンターワークショップ 2008	SE	H20. 1 月下旬	(未定)
2008 年ハイパフォーマンスコンピューティ ングと計算科学シンポジウム (HPCS2008)	HPC	H20. 1 月下旬	(未定)

ITS 産業フォーラム	ITS	H20. 2.22 (金)	化学会館
インタラクシオン2008	HCI,GN,UBI	H20. 3. 3 (月) ~ 4 (火)	学術総合センター

#### 4.2 教育活動 [所掌委員会：情報処理教育委員会]

教育活動は学会の基幹活動の一つである。情報処理教育委員会の傘の下で行われてきた教育活動の体系化、その活動に関する広報をさらに進める。予算において活動に対する収入の確保に努める。また、教育に関する表彰制度を拡充する。

##### (1) 大学・大学院での専門教育向けの活動

「情報系専門教育カリキュラム標準 J07」策定プロジェクトに関しては、昨年度策定した大学での情報分野専門教育に対する知識体系（知識項目とその達成度）表を基に、産学協同での議論を行ってコンセンサスを得つつ具体的なカリキュラム例を策定する。

日本技術者教育認定機構（JABEE）の諸活動を通して、大学での専門教育の質的向上を推進する。JABEE からの業務委託にあたる審査に加え、審査員の養成、受審コンサルテーションを担当する組織づくりを進める。大学院教育の質的向上に向けて、認定の実施も含めた方策の検討を進める。

##### (2) 社会人向けの活動

CPD、資格制度、試験制度、技術士制度などについて、理事会の方針に従って必要な活動を担当する。科学技術振興機構（JST）からの受託事業「Web ラーニングプラザ」の教材制作を支援する。

##### (3) 初等・中等教育，大学一般向けの活動

高等学校の教科「情報」に関して、内容の検討，教科書試作を継続して行うとともに、現場の先生との連携の場を広げる。小学校・中学校での教育の情報化と情報教育について各種の試行・支援を続ける。

初等・中等教育での状況も踏まえて大学での新しい姿の一般情報教育を推進すべく、教科書など教材の整備・提供に努める。

各種のコンテストの後援などを継続して行うとともに、情報分野に対する学生・生徒の興味をもたせる諸活動への支援を広げていく。

#### 4.3 事業活動 [所掌委員会：事業推進委員会]

##### (1) 第6回情報科学技術フォーラム（FIT2007）

会期：平成19年9月5日（水）～7日（金），会場：中京大学豊田キャンパス（豊田市）

##### (2) 第70回全国大会

会期：平成20年3月13日（木）～15日（土），会場：筑波大学

##### (3) 連続セミナー2007

全体（統一）テーマ：情報セキュリティ 2.0 - 自由と統制の時代の情報セキュリティ -

	開催時期	各回テーマ	コーディネータ
第1回	平成19年6月	「進化する Malware とセキュリティ」	寺田真敏（日立）
第2回	平成19年7月	「ビジネスと生活を結びセキュリティ」	吉浦 裕（電通大）
第3回	平成19年9月	「J-SOX 時代のデジタル・フォレンジック」	佐々木良一（電機大）

第4回	平成19年10月	「その後の個人情報保護」	菊池浩明（東海大）
第5回	平成19年11月	「バイオメトリックスの現状と今後」	西垣正勝（静岡大）
第6回	平成19年12月	「暗号の2010年問題と今後の展開」	神田雅透（NTT）

#### (4) 単発イベントの開催

産業界向けのイベントとして、社会的関心度の高いテーマ、時事性の高いテーマを会誌特集記事、過去に好評だったセミナー等を参考に、年度内に最低2回のセミナーを企画・実施する。

#### (5) プログラミング・シンポジウム

第49回プログラミング・シンポジウム

会期：未定，会場：未定

夏のプログラミング・シンポジウム

会期：平成19年8月8日～10日，会場：信州上山田温泉

情報科学若手の会

会期：未定，会場：未定

## 5．事業：会誌および学術図書の刊行（定款5条2号）

### 5.1 会誌「情報処理」(月刊) [所掌委員会：会誌編集委員会]

#### (1) コンテンツ

川合慧編集長のもと、社会との関わりを意識し、より一層バラエティに富んだ記事構成を目指し、会誌の充実に努める。特に、ソフトウェア関係の特集では、ソフトウェアをCD-ROMで配布するなどの試みを検討する。

#### (2) 会誌とオンデマンド

引き続き、BookParkを通じたオンデマンド出版を推進する。

#### (3) 広報活動

引き続き、会誌、IPJSJメールニュース、Webサイトの連携を深め、IPJSJメールニュースへの広告掲載、Webサイトへのバナー広告掲載の魅力を高めるとともに、広報活動に一層努力し、広告収入増の一助とする。

### 5.2 「情報処理学会論文誌(ジャーナル)」(月刊) [所掌委員会：論文誌編集委員会]

#### (1) 「情報処理学会論文誌(ジャーナル)」の月刊体制の維持

一般論文、特集論文を含めた月刊体制を維持し、充実させる。

#### (2) 英文オンラインジャーナル「IPJSJ Digital Courier」の刊行体制の維持

「IPJSJ Digital Courier (DC)」の刊行体制を維持し、発展させる。同誌のインパクトファクタ取得に向けて、トランザクションと連携した制度整備を行う。国際会議等に採録された英文論文のDCへの投稿誘導、海外非会員からの投稿受け入れなどを推進する。

#### (3) 情報関係学会英文論文合同アーカイブズ(IMT)の刊行体制の維持

平成18年度より刊行している情報関係学会英文論文合同アーカイブズ(IMT)の編集運営会議幹事学会として、その安定した編集および定期的な刊行を支援する。

IMT: Information and Media Technologies

#### (4) 論文査読管理システム（PRMS）への移行と運用

論文の投稿，査読，採否決定等一連の作業を電子化した論文査読管理システム（PRMS）に完全に移行し，運用を行う。PRMS を利用した査読体制を会員に浸透させ，安全かつ合理的に維持管理し，必要に応じて改良を施す。

PRMS：Paper Review Management System

#### (5) 電子出版への刊行体制の移行

電子出版を中心とした刊行体制に移行して論文誌刊行コストを下げることにより，論文掲載料（別刷料金）の引き下げ，非会員からの論文投稿掲載を認める仕組みの実現に努める。複数の出版形態が混在することからくるオリジナル・リプリントの種別を明確化する。

#### (6) 特集号企画の充実

電子出版を中心とした刊行体制への円滑な移行を達成するため，特集号企画の充実による掲載論文数増加のための施策（実務家向け特集，国際会議やFIT との連動など）を検討，推進する。

### 5.3 「情報処理学会論文誌（トランザクション）」 [ 所掌委員会：調査研究運営委員会 ]

発行の安定性と持続性，ジャーナルとの協調，発行部数拡大を目標に，現在の 7 誌の発行を計画し，このほか新規発行計画を促進する。

・プログラミング（PRO）	年間発行 4 回
・数理モデル化と応用（TOM）	年間発行 3 回
・データベース（TOD）	年間発行 4 回
・コンピュータビジョンとイメージメディア（CVIM）	年間発行 3 回
・コンピューティングシステム（ACS）	年間発行 4 回
・バイオ情報学（TBIO）	年間発行 2 回
・システム LSI 設計技術（SLDM）	年間発行 2 回

### 5.4 論文誌編集出版に関する学会方針：新体制に向けた運営の推進

論文誌ジャーナル，トランザクション，IPSJ Digital Courier の現状における問題点を整理し，オンライン出版に向けた学会論文誌編集出版に関する学会方針を策定した。19 年度は学会方針に基づく諸規程を整え，次の新体制への円滑な移行と運営の改善推進を図る。

なお，20 年 4 月に「IPSJ Digital Courier（DC）」の名称を「Journal of Information Processing（JIP）」に変更予定である。

#### (1) 各編集委員会を統括する「学会論文誌運営委員会」の創設

#### (2) 独立した編集委員会による各誌の編集

IPSJ Digital Courier（DC） IPSJ Digital Courier 編集委員会  
ジャーナル ジャーナル編集委員会  
トランザクション 各トランザクション編集委員会

#### (3) 海外オンライン発信の対象

IPSJ Digital Courier（DC）  
英文トランザクション各誌（現状では，BIO，SDML 予定）  
和文トランザクションに掲載される英文論文ポータル

## 5.5 論文誌および研究会活動のオンライン化 [所掌：オンライン論文誌検討WG]

情報処理のリーダーとして情報処理技術の社会応用に先駆的に挑むべく、本会創立50周年（2010年）に向けて、論文誌および研究会の活動を全面的にオンライン化させ、単にペーパーレスによる印刷コストの低減だけでなく、オンライン化することで得られる会員のメリットを最大限追及することを目指す。

### (1) 論文誌および研究会刊行物のオンライン出版

段階的にそれぞれの刊行物の全面オンライン化を実施し、2010年には論文誌と研究会刊行物の全てを包括して、低価格で購読可能な「総合デジタルライブラリ（仮称）」の実現を目指す。

### (2) 研究発表会・シンポジウム会場等におけるペーパーレス化

研究会およびシンポジウム会場における紙ベースの資料・論文集の配布を、原則として廃止する方向で検討する。

### (3) スケジュール概要

	19年度 (2007)	20年度 (2008)	21年度 (2009)	22年度 (2010 = 50周年)
[ジャーナル]	準備・周知(秋)	E化実施		総合 DL 実施
[トランザクション]	準備・一部擦合せ	E化実施		総合 DL 実施
[研究会]	準備・一部試行	----- E化実施		総合 DL 実施
[シンポジウム]	準備・共催先擦合せ	----- E化実施		総合 DL 実施

## 5.6 出版活動 [所掌委員会：出版委員会]

### (1) 「情報処理ハンドブック」の発行

次世代型ハンドブックの発行を目指し、50周年事業として詳細を検討する。

### (2) 教科書シリーズの終息

新規の企画は行わず、既企画の見直しにより発行が可能なものがあるかどうか、あるいは既刊本のメンテナンスのため年2回のペースで委員会を開催する。

### (3) 英文図書：“Advanced Information Technology Series”

本会の研究動向を海外に広く発信することを目的に、引き続き2年間で5冊を目標に標記シリーズの英文図書を発行する。また電子的な公開方法についても検討する。

### (4) 歴史特別委員会

歴史資料の収集・整理・保管

「コンピュータ博物館」の充実

- ・歴史的コンピュータの年表および写真について対象年度を2000年まで拡大する（19年度科研費申請）。
- ・オーラルヒストリーを追加する。
- ・英語版のCMS化を行う。

単行本「日本のコンピュータの歴史（1981-2000年版）」の編集

卓越技術DBの編集

## 5.7 著作権 [所掌委員会：著作権委員会]

オープンアクセスや機関レポジトリなど、複雑化する著作権処理への対応を行う。

---

---

## 6．事業：標準化の推進ならびに普及啓蒙（定款5条3号）

---

---

### 6．1 情報規格調査活動 [所掌委員会：情報規格調査会]

#### (1) 国際標準化活動への積極的貢献

幹事国，Chairman, Convener, Project Editor のポジションを積極的に引き受ける。  
幹事国業務を担当できる人的資源を拡充し，幹事国業務担当能力の強化・安定化を図る。

#### (2) 日本提案による国際標準化の推進

2006年度は日本から4件のNPが提案された。今後も日本発の提案がなされるよう委員会に働きかけを行い，提案実現に向けて積極的な支援を行う。

#### (3) JTC1 最新動向への積極的対応

JTC1 SWG-Directives への参加  
Technology Watch SWG への参加  
JTC1 の将来に関する調査アドホックへの参加

#### (4) その他

符号化文字集合（ISO/IEC 10646）への追加登録提案  
メタモデル相互運用枠組み

---

---

## 7．事業：情報技術関連の国際学協会への加盟ならびに連絡・協力（定款5条4号）

---

---

### 7．1 国際活動 [所掌委員会：国際業務委員会，IFIP 委員会]

#### (1) IEEE-Computer Society との連携・協力

The 2008 Symposium on Applications and the Internet（SAINT2008）の開催（第8回目）  
対象分野：Internet の Infrastructure と Applications  
開催日：2008年7月28日（月）～8月1日（金），開催地：フィンランド  
参加者数見込み：150～250人  
General Chairs      IPSJ：欧州開催のため該当無し，IEEE-CS：未定，開催国：未定  
Program Chairs      IPSJ：岡部寿男（京大），IEEE-CS：未定  
全国大会での IEEE-CS 会長招待講演

#### (2) アジア地域学協会との連携・協力

Korea Information Science Society（KISS）との連携・協力  
東南アジア諸国との連絡  
2006年5月の South East Asia Regional Computer Confederation 理事会で，本連合（SEARCC）は解散が決定されたが，今後も東南アジア諸国との連携のため議論には参画していく。

#### (3) International Federation for Information Processing（IFIP）活動への参加

IFIP 日本代表ならびに TC-Chair の年1回開催される総会 General Assembly（GA）および理事会 Council への参加  
各 TC 日本代表の TC-meeting への参加

IFIP 活動周知の活性化

- ・ IFIP 活動報告を年 1 回会誌に掲載する。
- ・ 会誌の会議レポートページを活用し、各 TC の主要国際会議の会議レポートを掲載する。
- ・ メールニュース、Web を利用した IFIP 活動（会議案内等）の情報発信を行う。

#### (4) その他

国際会議の開催（4 件）

- ・ International Workshop on Security 2007（IWSE2007）  
開催日：2007 年 10 月 29 日（月）～ 31 日（水），開催地：奈良新公会堂
- ・ Ubiquitous Computing System Symposium（UCS 2007）  
開催日：2007 年 11 月 26 日（月）～ 29 日（木），開催地：秋葉原 UDX / 秋葉原ダイビル
- ・ Asia Pacific Software Engineering Conference 2007（APSEC2007）  
開催日：2007 年 12 月 5 日（水）～ 7 日（金），開催地：名古屋ミッドランドスクエア
- ・ 4th International Conference on Mobile Computing and Ubiquitous Networking（ICMU2008）  
開催日：2008 年 6 月 11 日（水）～ 13 日（金），開催地：はこだて未来大学（秋葉原ダイビル）

The International Association for Pattern Recognition（IAPR）活動への参加  
年 4 回程度発行される News Letter を発送する。

他海外学会との協力関係継続

ACM，CSI（インドコンピュータ学会），ASTI（フランス情報科学技術協会）との協定（覚書）継続。  
機関誌の相互発送等。

---

---

## 8．事業：関連学協会との連絡および協力（定款 5 条 5 号）

---

---

### 8．1 関連学協会・日本学術会議

#### (1) 電気・情報関連学会連絡協議会および日本工学会への参加

#### (2) 研究発表・学術講習会等の共催

電子情報通信学会（情報・システムソサエティおよびヒューマンコミュニケーショングループ）との共催による「情報科学技術フォーラム（FIT）（前 4.3 項参照）」他，研究発表会および学術講習会において関連学協会等と適宜共催を行う。

#### (3) 日本学術会議など関連団体等への協力

### 8．2 会議の協賛後援等

関連学協会等からの要請に応じて適宜，会議の協賛後援等を行う。

---

---

## 9．事業：その他，目的を達成するために必要な事業（定款5条6号）

---

---

### 9．1 創立50周年記念事業の実施準備

#### (1) 50周年記念事業準備委員会の設置

本会は平成22年4月に創立50周年を迎えることから，記念事業実施のための準備委員会を設置し，記念事業の基本方針，事業内容・規模，推進組織および運営方法等を検討・策定する。

#### (2) 現段階で予定される事業内容

現段階で予想される事業内容は次の通りである。

- 総合デジタルライブラリの刊行
- 次世代型ハンドブックの刊行（記念出版）
- 記念全国大会の開催
- 記念会誌（特集号の刊行）
- 記念式典の開催
- 50年史の編纂・刊行（記念出版）

### 9．2 入会促進・広報活動

#### (1) 学生会員の獲得と育成

引続き学生会員の1研究会登録の無料化を継続し，学生会員の研究会参加を促進するとともに，研究会と支部の協力を得て正会員への定着率の向上に努める。

また，新たな学生会員の獲得を推進するため，学生向けの学会紹介ビデオの作成を予定する。

#### (2) 実務家の取り込み

技術応用活動（次9.3項参照）や，産業界向けの連続セミナーおよび単発イベント（前4.3項参照）等により，実務家の取り込みを推進する。

#### (3) 新たな賛助会員の獲得

前項の活動等と連携し，引き続き新たな賛助会員の獲得に努める。

#### (4) その他

- ・各種行事等の場において入会促進ならびに広報活動を推進する。
- ・情報関連企業への電子メールによる学会紹介，IPSJメールニュースの充実等の広報活動を推進する。
- ・情報関連展示会の場において本会の活動を紹介する。

### 9．3 技術応用活動 [所掌委員会：技術応用運営委員会]

実務家を中心とするコミュニティ「ITフォーラム」と「ソフトウェアジャパン」の運営をベースに，引き続き，これまで学会とは接点の少なかった分野や，新たな分野の会員の参画を目指すとともに，Webの浸透に対応した新たな学会活動の在り方を探っていく。

#### (1) IT フォーラムの本格的な活動の活性化

IT フォーラムのメンバとしての参画を促し、活動が自律的・継続的に活性化するよう、次の施策を推進する。

##### 1) 会誌「IT フォーラム」欄（実務家向けセクション）の新設

魅力的なコンテンツを配信する仕組みとして、会誌に「IT フォーラム」欄（実務家向けセクション）を設定し、各フォーラムの紹介、著名人の記事（ソフトウェアジャパン招待講演者の講演録など）、オピニオンリーダーの寄稿などを企画する。

##### 2) リアルなイベントの開催

ワークショップやチュートリアルなどのリアルなイベントの開催をフォーラム毎に推進する。

##### 3) アウト・リーチする仕組み

学会関連イベント参加者の ML の整備と活用

情報サービス産業協会（JISA）、情報システムユーザ協会（JUAS）などの関連団体との連携

商業プロモーション（日経 BP など）とのタイアップ

企業のシニアマネージャによるアドバイザリボード（IAB: Industry Advisory Board）の設置

#### (2) 学会ホスティング、ソーシャルネットワークサービス（SNS）の試行・運用

コミュニティネットワークを創発する仕組みとして、現在の XOOOPS の運用に並行して、SNS の運用を試行する。

#### (3) 「ソフトウェアジャパン 2008」の開催（2008 年 1 月）

プログラム、運営、収支の改善：IT フォーラムとのシナジーの強化

表彰制度の拡充：ソフトウェアジャパン賞、IT ダイバーシティ賞など

### 9.4 IT プロフェッショナルの地位向上のための取組み

情報処理技術者のプロフェッションの確立を通じて、その社会的地位の向上を図るとともに、わが国において情報処理技術が魅力ある分野として認識されるように、産学官との連携を含めた諸施策を検討する委員会を設置する。

### 9.5 専門家集団としての積極的な情報発信

情報技術に関する専門家集団として、技術の発展・教育施策策定等に資する提言等を、社会に対して、引続き積極的に発信していく。

### 9.6 運営体制の充実・改善等

#### (1) 公益法人改革への対応

公益法人制度改革 3 法案が平成 20 年に施行されるに当たり、新法施行後は、本会は「公益社団法人」に移行するよう、今後の諸対応を進めていく。

#### (2) 電子化の推進

セキュリティ監査を実施したうえで、学会マネジメントシステムの会員認証 / プロファイル更新機能

等の本格運用を実施する。入会機能の構築および電子図書館を含む外部システムとの連携を検討する。  
一般投稿による論文査読管理システム（PRMS）の実運用を通して、機能改良や画面レイアウト改善等を図る。

研究報告，シンポジウム論文の電子投稿受付システムを構築する。

総合デジタルライブラリ会員制度とサイトライセンス制度導入の実施に関するオンライン論文誌検討WG，総務財務運営委員会の検討に従い，電子図書館の機能拡張を図る。

## 9.7 支部活動

支部長会議を開催し，各支部活動の現況報告の他，本部支部間の連絡要望等について審議，検討する。

支部総会，役員会，支部大会，電気関係学会連合大会等を開催する。

支部活動への支援として，支部総会への本部役員派遣，講演会講師の紹介，周年行事等への助成，支部役員選挙の同時実施等を継続する。

## 9.8 表彰等

功績賞

論文賞

長尾真記念特別賞

山下記念研究賞

大会優秀賞，大会奨励賞

優秀教育賞，優秀教材賞

業績賞

学会活動貢献賞

このほか，名誉会員の選定，フェローの認証，感謝状の贈呈等を行う。

以上